

ウシワカ・プロジェクトの次世代にむけた決議

高度経済成長期にその多くが建設され、日本の経済発展に貢献してきた橋。しかし、それらは高齢化による損傷が顕著に進んでいるものが多い。また、度重なる自然災害に起因し損傷を受けるものも多くなってきた。この橋たちは、様々な立場で橋の再生に情熱を燃やし取組む技能者たち「ウシワカ」の手によって支えられている。

私たちは、橋梁工事の魅力や重要性を発信して、技能者たちの人財確保や建設業界のイメージ向上などを目的とした「ウシワカ・プロジェクト」を発足し、その一環として、橋の再生に取り組んでいる「ウシワカ」たちの熱い思いを伝える番組「牛若く鉄人たちの橋の再生物語」を令和三年四月に中部地区にてスタートさせた。放映終了後のオフイシャルサイトでの動画視聴を可能にしたことで、多方面から予想以上の反響を得ることができ、その流れは、翌年令和四年二月の放送局を5局に増やした第二章、令和五年一月の放送局を9局に増やした第三章へと続いた。

番組以外にも、広島大学との協働による特別講義、協賛企業とのコラボイベント、地域ボランティア活動などを定期的に開催し、インフラ整備の大切さややりがい等を伝えてきた。

一方で、昨年八月に実施した「知覧研修」や一昨年四月に実施した「牛若道場」をはじめ、昨年十一月に実施した関係企業間の交流会「ウシワカを丸にする会」等を開催することで、各自の研鑽にも努めてきた。

そのような中、後援団体は現時点で十四団体となり、建設業界以外の七社からの協賛も得ることができた。そして、令和四年二月には「第二十二回中部の未来創造大賞 奨励賞」、同年三月には「第一回インフラメンテナンスチャレンジ賞」、令和五年一月には「第六回インフラメンテナンス大賞のメンテナンスを支える活動部門優秀賞」受賞に至った。

これらは、このウシワカ・プロジェクトを支えてきたすべての関係者のお陰であることは言うまでも無いが、建設業界の持続的発展、そして国土強靱化に対する大きな期待の表れと捉えることもできる。少子高齢化が進む中、インフラの高齢化と自然災害の大規模化が加速している。私たちは、三十年後の次世代に健全なインフラを残すために、燃え上がった「ウシワカ」の炎を絶やすことはできない。ここに、満を持して「牛若第四章」日本のインフラを守る技能者たちの挑戦」を始動させた。

先回までの「ウシワカ」の志を引き継いだ、新たな「ウシワカ」たちがここに集い、自らの声で志を伝える。このことを通じて、インフラを支える建設工事の魅力と重要性が世の中に広く認められ、志に賛同する若き「ウシワカ」たちが建設業界の扉を叩いてくれることに期待する。そして、世の中において、なくてはならない仕事としての認知度が上がれば、建設職人基本法の骨格でもある技能者の地位向上にもつながり、安全・安心に大きく貢献できる。

私たちは、この活動を通じ、様々な機会において建設業界の持続的発展と国土強靱化に寄与することをここに誓うものである。

「三十年後の日本を見据えるウシワカたちの志、誇り高き挑戦」

右、決議する。

令和六年一月十二日

ウシワカ第四章放送開始にむけた決起集会